

死後の種々相

死にも種々あるが、脳溢血や卒中、心臓麻痺、変死等の為、突如として靈界人となる場合があるが、何も知らない世人は病氣の苦痛を知らないから寧ろ倖せであるなどといふが、之等は非常な誤りで実は此上ない不幸である。それは死の覚悟がない為靈界に往つても自分分は死んだとは思はず相変らず生きていると想っている。然るに自分の肉体がないので、遮二無二肉体を求める。其場合自己に繋がっている靈線を辿るのである。靈線は死後と雖も血族の繋りがあるから、靈はそれを伝はり人間に憑依しようとするが、憑依せんとする場合衰弱者、産後貧血せる婦人、特に小児には憑依し易いので多くは小児に憑依する。之が真症小児麻痺の原因であり、又癲癇の原因ともなるので、小児麻痺は脳溢血の如き症状が多いのはその為であり、癲癇は死の刹那の症状が表はれるのである。例へば泡を吹くのは水死の霊であり、火を見て発作する火癲癇は火傷死であり、其他

変死の状態其のまゝを表はすもので夢遊病者もそうであり、精神病の原因となる事もある。

次に変死に就て知りおくべき事がある。それは他殺自殺等凡て変死者の霊は地縛の霊と称し、その死所から暫くの間離脱する事が出来ないのである。普通数間又は数十間以内の圏内に居るが、淋しさの余り友を呼びたがる。世間よく鉄道線路などで轢死者が出来た場所、河川に投身者のあつた其岸边、縊死者のあつた木の枝等よく後を引くが右の理によるのである。地縛の霊は普通三十年間其場所から離れない事になっているが、遺族の供養次第によっては大いに短縮する事が出来得るから、変死者の霊には特に懇ろなる供養を施すべきである。そうして凡ての死者特に自殺者の如きは霊界に往つても死の刹那の苦悩が持続する為大いに後悔するのである。何となれば霊界は現界の延長であるからである。

此理によつて死に際し、如何なる立派な善人であっても苦痛が伴ふ場合中有界又は地獄に往くのである。又生前孤独の人は霊界に往つ

ても孤独であり、不遇の人はやはり不遇である。唯だ特に反対の場合もある。それは如何なる事かといふと、人を苦しめたり、吝であつたり、道に外れた事をして富豪となつた人が靈界に往くや、その罪に依て反対の結果になる。即ち非常な貧困者となるので大いに後悔するのである。之に反し現界に居る時、社会の為人の為に財を費し善徳を積んだ人は靈界に往くや分限者となり、幸福者となるのである。又斯ういふ事もある。現界に於て表面は如何に立派な人でも、靈界に行つて数ヶ月乃至一ヶ年位経るうちにその人の想念通りの面貌となるのである。何故なれば靈界は想念の世界で肉体といふ遮蔽物が無いから、醜惡なる想念は醜惡なる面貌となり、善徳ある人はその通りの面貌となるので之によつてみても現界と異っている事が知らるるのである。全く靈界は偏頗がなく公平であるかが知られるのである。

以前斯ういふ例があつた。其当時私の部下に山田某といふ青年があつた。或日彼は私に向つて「急に大阪へ行かなければならない事が

出来たから暇を呉れ」といふのである。見ると彼の顔色挙動等普通ではない。私はその理由を質ねたが、その言語は曖昧不透明である。私は靈的に調べてみようと思った。其当時私は靈の研究に興味をもちそれに没頭していたからである。先づ彼を端座瞑目させて靈査法にかかるや、彼は非常に苦悶の形相を表はしノタ打つのである。私の訊問に応じて靈の答は次の如きものである。「自分は山田の友人の某といふ者で、大阪の某会社に勤務中、其社の専務が良からぬ者の甘言を信じ自分を誡にしたので、無念遣る方なく悲觀の結果服毒自殺したのである。然るに自分は自殺すれば無に帰すると想っていた処、無になる処か死の刹那の苦悶が何時迄も持続しているのであまりの予想外に後悔すると共に、之も専務の奴が因であるから、復讐すべく山田をして殺害させようと思ひ、自分が憑依して大阪へ連れて行かうとしたのである」此言葉も苦悶の中から途切れ途切れに語った。尚彼は苦悶を除去してもらいたいと懇願するので、

私はその不心得を悟し苦悩の払拭法を行ふや、靈は非常に楽になったと喜び厚く謝し、兇行を思ひ止る事を誓ひ去ったのである。

右憑靈中山田は無我であつたから、自己の喋舌つた事は全然知らなかつた。覚醒後私が靈の語つたまゝを話すと驚くと共に、危険の一步手前で救はれた事を喜んだのであつた。

之によつてみても人間は如何なる苦悩にあふも、自殺は決して為すべからざるものである事を識るべきである。

特に世人の意外とする処は情死である。死んで天国へ行き蓮の台に乗り、たのしく暮そうなどと思ふが之は大違ひである。それを詳しくかいてみよう。

抱合心中などは靈界へ往くや、靈と靈とが密着して離れないから不便此上なく、而も他の靈に対し醜態を晒すので後悔する事夥しいのである。又普通の情死者は其際の想念と行動によつて脊と脊が密着したり、腹と脊が密着したりして凡ての自由を欠き、不便極まりないのである。又生前最も醜惡なる男女關係、世に謂ふ逆様事などし

た靈は逆さに密着し一方が立てば一方は逆さとなるというやうに不便と苦痛は想像も出来ない程である。其他人の師表に立つべき僧侶、神官、教育者等の男女の不純関係の如きは、普通人より刑罰の重い事は勿論である。